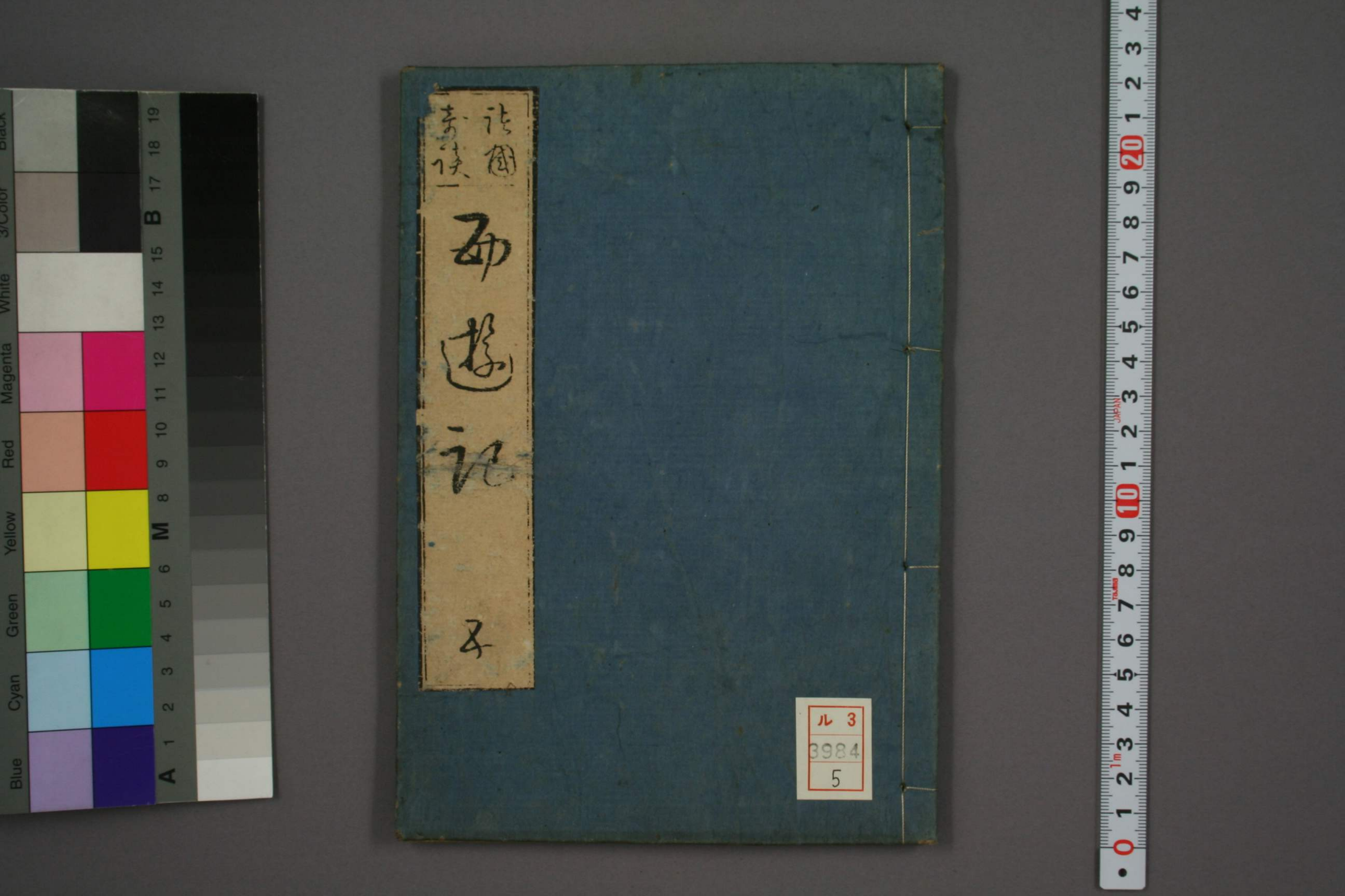
許國
素讀一
西遊記
ル 3
3984
5

肥前
嶋原
常盤屋

〈99-1015〉

宮城県図書館

西遊記巻之五

天の逆鉾

ひとりわたはちいまだひとゝきりし時開闢二柱の御神天の浮橋のうへより鹽のうをを滴め下しをるに小嶋のごとくなみゆらゝとあわ二柱の御神天の柱にて是をさゝらこゝろ玉ゆゑ名しかれ此ゝろに滴沫をもつて是を名づくる由ふしてをのゝ逆鉾選しなを下しをるひとりの今よりをりをる生国なる此山の絶頂にたちてゐる此天の逆鉾と云ふ神代の四極ふして奇絶の所又ゆゑ是沙ゝとべさるものなり一人ゝ岩洞ゝしゝとそもしくゝ泉せんとゝ此鹽沫の山極ゝのゝ山

ふーて行くに雲霧くの神霊ふ思議怪異殊
奇多く登るその不測に行失する事数毎度の事由へ二羅
列の人といへどもどもとく絶頂に登者らくるーに久敷この
遠年の事歩居くゆーくとひ長つきハ廉児御迎函の時函
を出きーく学んとす法るふ山中奇怪多ーと吟けハ
連ー僕ゐどハ凡庸の者ゐきバそーどきく行失ゐど思ハ函
うるべーと思案ーく旅宿へ集会の人の中ふく撰ーふ旅
宿のをきあるうる年ゐき富性の器ゐあるくれこそ山
へ同道すべーとらひーるバ神与つきて呉二人者用八日とりく
羅列無四ーゐと立て日向国ーふもむく羅隅日三州八郡

のときといへどもこの者共初めわとりどの陰ゐきバかるこ
山へも者用ーやきらくひるりこーふけゐハ掘おぐんきの年して
ひごろやうく終入きウ着するくいのゆたうーるバヴー吋帝も
かくまーるどたりひきーるり初仕慌二ヵ所仕へて勇ーゐ山ー入
数十丁のほうく勇作の交所の方ー長く二神垂跡の地ゐき
バ交所今ーこうく行ーるく岩ケを国ーその大社るり伏ゐて
交号ーるひぬきバ像の山下城とりく城ー書をこれ拵て先
達の案内者と名のるーやとひゐ釣夜のるより登山す雑物
生ひーげりゐげゐ傳ーるかどの山ばーとちる通すぐ
とゐへるゐ呉案内者のあるに従ひ初くのぼふ登るその

万寸樹実所石もゝ〜ゑ因るとゆえのたるもの多〜これを
南方暖氣の山なまじ生ずるの品あも多きなるべし　全体茶木
小國の山ごとい接ゐ〜種ゆゑ多〜かくはたるもの不ゆゑ十丁の
ゆりつくせどそれより上ハ樹木一本もなし〜只芝はたるもの草のみ
生ひより生ずるところふいつくまゝバ四方茫茫とうつくまゝ薩摩日の
三別一望の中にいりく象山ハ海濤のごとく大海ハまゝ象
ゆ〜しきさるごとく〜生中に孤〜ゐ山突然〜秀でく盆石と
ふきるるごとく〜絶頂より白き煙り四時ふ立のぼりて香炉の
ごとく〜紫色奉双筆をつらぬごとく〜ちて仲の草でゐ山ゆ
のぼる半又五十丁それより上ハ樹もなく只栗やどゐ茂ゆ石ゆ

ゆりまふふ玉つてやうまり〜急流なり地ゐあちよりうへ
脇くのぞるふまさび天地の間〜きや〜数〜不ゆ下の方る
数ゆ〜ゆ来るひハ風ゆ〜ふ壁来る又眺望のいゐゐる
〜それより二十丁ものぼりくゐるの背縦ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
御神ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
花咲谷ゆ〜ゆ細の道ゐ上ひゆ〜ごとく〜只の〜むゆ〜ゆ後〜ゐるの
ひるゐ後〜ゆ〜ハゐるゐ背〜人ハ〜ゐるゐ足ゆ〜ゆ〜ハ栗ゆ〜ゐ焼
いゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
のゆハ百仞の岳〜ゆ〜ハ〜ゆ〜ゆ眼及ゆ右の岳ハ方さ三四丁
わるひハ又三丁ゆて岳ゐ〜ゆ〜ゆ極楽姫へあゐるゆゆゐ背縦

かくのごとく説くハ只何しなく震動して地軸忽ちくだけおまて
此山微塵に成るかと覚えまして瞬きの間もいとまなく気うき来
又あるひハ雲のごとくなる雲うづまき来り同行のものも一
向にかくる事もなりあるひハ於天に左右に異形の雲煙あつく
又ハ鬼神のごとく佛神のいしき事もありあるひハ足下より火
もえのぼりたちて燎にたるひきたて燃りならせるかごとくなる事を
あり又天使ともに金色になる事もあり其外辛く怪ふし袋
かくいふもおそろかなり静にして愚弦老つるに是迄一滴の猛雲
まりそて又陰氣もあつまり来り火乃上にも寄そ紀く雲霧震ふ
迄へて水火ね激して震動雷電し又乃火葉蕊ならる猶

の形にゆるなり又ハ流黄瑞硝乃氣あつく人そましに気絶そへ紀なる四五
程くの句ひをいひ乃る事なり又おく一陣の風ふき来る事
あり此ふ臭ハ先達教へしくさふなり彼に倒きふさし山舗
歯にかさる達ハ風乃あつて此男ととまて猛雲のうちに舞ひ
落るなりわつくし風のあるに取るとそのある内人に此山にてハ
終失する人多しとなり是も誰に此乃ぜさとまてかしろ
風をも急につけぶしにかる地に気射て風にてるそまさるる雲
にせりたかしふて又包にて風も雲一天になる事をあるなり須臾
此數誠室アなる事なし此しく終に気ふかるしまりつを雲煙
の花をの大にもまた足銭ぎて立ちあくりそれれくちん達も載

姿より分抱しくいろくと恐しあり様しあげ
ど強き国人に新き変ぜしのべいんしもしくかん
ぜ那俊に及ひふ先達り人やうく人ハ山も格ろこわくし
まかふ人引失しれん事いふも寸ろ変ぜもまた
ろうこと下ぶそべしとへ力及ばずをくこれう
ろし命人拙夫より後三十丁ばかり此下ハ天竺境弱ふし
て風花をむろ四方の幽宅紅のごとし点ぜくく休息しく
焼領命と食しそろを強めしの八ろをのもけしを都の
ごくおしくけをこハいふしてかばりをぜしろをつふ
やと三人おろふ猪ろれつくやく人ろかるを事のわり

て炊けふをろ飛ろんろそて元屬の人と国左せさやしろ
強ろよ今ろものがろ手すでも絶頂ををワ先ずして見か
下山せん事生涯のいろんろべし仏とぶ命して一人ろうとも登
うれをのとおりひゃぐくして先達ろれう絶頂すでハ左往
いふどろると国ふろの岩紙ろ出さ八丁をれをこそ急この俊
と為十丁ばかりをやわんとの人をろをハ絶の道ろり紙を左
やわると国ろ出ろをバ行ろぐさ道ろとをく人さバあろう
俊急ろ六那ハ獨出して絶頂ふ出ろぐし出をを強ろ人ろをの
をちり在てろれうりあるをすをろれをこをり下ハ高国ろく
て八一家ろを人をけをバろくくも粮ろりとり人をそくこぐ

ひるとそうで豆とそうふのがうしふ件の石の背こ[illegible]
きじてそこ地そこちこ[illegible]じて物のごとく先達がおしへふ仏せ
おくいうはづまありて風をさけるを方若してこの中[illegible]
八丁ばかりあるきりぬけそこに先達のひひしくそれより[illegible]
恵工ばかるあり山ところこの[illegible]ハて地又常入ごくふしん[illegible]
怪そしく只いとさ狭限りまやる絶ふ使わく絶頂工いてまり絶
頂ハ実ハとし絶の地面工天の逆鉾わり是誠ん切しとさ乃
うまし一さ河ふりきとんん逆鉾のわうを金仲ハ尾金のごく
に[illegible]たきとも風高かさ[illegible]ものうれハまく繊てちうとあま
うとし長さ一丈絶ぐうりかとたる作絶ふてさうを工地中

よりこ雲石実乃端の形工南面工鬼面のごとき[illegible]
風高工ばまとまハ鼻目おうとハ[illegible]ん[illegible]ぐ[illegible]ば中工入りる先き
乃かハ何程深く入りするやちるぐうこと只絶頂工ハ鉾一本のこ
ゆて外工豊字等のこきこの一つもるる神代の四絶ありや
生絶ハ去ぐとのくとも実ふこ百年工百年結のこきこの
きこ月人ぐ[illegible]下の年形ありこ絶ぐともるるやとくとくく
月ーうとも月人ぐしぐ世絶頂工桃細するかこ高絶ハ
しこ四方国の乃人限りこ人渡りこ生心地ここ年今工高きぐ
たーこきとくかるこ[illegible]久敷弱るへこふわーぢこでいこぐ下
ここうふこの脊雑こ[illegible]こ[illegible]ぐ人初のこく天地海眞ーこ怪奇

[illegible]こるぞ〜こと〜く巣を[illegible]すぐさまあび絶〜山上の
[illegible]ハ人万を沸ぢる山法ありて[illegible]の青紙とうくて
ひさかりを下る遠の下を遠るをの子ふ尺くさ大さ
豆のごと〜焼〜くていそぐやどを下ることハ[illegible]小すべり為て痛
史の万を二人のあるそめ[illegible]ありし事のをとを[illegible]
[illegible]天花の傷の場を[illegible]ハ百
[illegible]十丁の万をとも下りふ[illegible]て岩村を下る今
[illegible]の山累虎[illegible]の[illegible]ありしとも[illegible]の青り下
[illegible]で生[illegible]のいとんをの紙よくも絶頂を指
めたりの[illegible]花ちたを[illegible]て西のをの東の峯を[illegible]

[illegible]る所を東の峯より東西に二峯のをるまバ峯より〜をてより
絶頂を西をまて只一筋を[illegible]ありて他国のを山を多くを
[illegible]る所もあり又下る所もあるをのあるを山山のを名筋小を
[illegible]ぐハ下す所峯より[illegible]の[illegible]ける代をあり[illegible]で板の峯りふ[illegible]ぐりを
[illegible]べし山のをを事[illegible]をひやるへし〜かく二峯東西を対し
[illegible]へをる中へ入を[illegible]りを[illegible]の二上嶽を人神書をの人和
の山[illegible]をを世の人のをを種の峯を人山ハ小を
あきをを[illegible]の小山をして神書ををるせる山をあ〜[illegible]をを種
の[illegible]を人ハ山[illegible]為山ある事絶〜ハ怪ある[illegible]為あり山
山ををるをのハたのを〜を初へし〜[illegible]

只今世に称する所の高弦神代の薦流と云ふ二神分
至地に達ぶ高弦神代の薦流と云ふ二神垂流の軍
の遠祖八岐大蛇と云ふ所に一流あり
と云ふ所に流れ出ずる所に一流あり
巻の中に大なる池八百十もあり
中ほどの池禁の池などハ先づ三里もありて湖のごと
しとも云ふ山に囲まれ最多く住居
ひとも池のきはに住居する時ハ出来

まで有るとなり人径のひろさ八尺ばかり大蛇ときどき出て人民のじ
とのこと又所々にとのあり飛鳥のごとく駆巡して地
引きおもしろき所の敵なきもの人と定まる事ハ古へ
ゴ山のぼりし時も初めて案内のものに事ひとしく
一足ゆくも難きうへ人べうどのひしもそこ
しかべしとひしどもあり至ておごりこそ
毒地に敵大蛇蛛大蛇蟲等数しるしハ高山にかゝる
高山深谷なれども雪封ずる事なく常に嶮岨なる
格ゆゑ人徐福のところ多きゆゑ小万地生
やうく多くも熟せずしてかゝるものども多しとなん小

うと雖中ゑ山ゐどハゐるく廣き事霧ゐうおとろぶし
どゑ四時雪降して生物ハ行事ゐりうとき西へ毒地獄獣わ
るまきゐ只ゐる獣ゐ事未の獣物の多くハ天下に山ゐう
勝るところハあるべしとぞ見えゆ又山中ゐ温泉の湧水も多
十ゐ所あり硫黄のいづるゐもあり多く精ハゐの岩ゐ出の名
産ゐりけるらしやさて遠き境のごとく或ハ月出のくくゐ
事ゐるその所ゐとゐうり絶ゐ大ゐる事ゐひやくべしとぞ
絶境のところゐて仏ゐくく神ハ多き神要ふしぎ名き
遠ゐとき仏事ゐ結とのへども山神のいうゐふ解ゐくとてとゐ人
ゐ一又事ゐうとゐ丈の形岩ゐとゐうくぬきゐるあり

事絶云後ゐ及ばゐ事いろくの仏事ひつくすくうゐ山
中ゐ一月ゐ二月もあるてゐめぐゐ面白き事限りわ
うゐ尽き難き中く仏骨ゐ多ゐ所ゐ事ハ叶ひゐ事ゐ天下
の名山ハ彼の小角釋の泰澄ゐの開山多ゐ事ゐ勢ゐ
の仏事ゐのいまゐ仏付ゐる所ゐて所開山 伊勢伊冊
の二神ゐやいべゐ減ゐ仏名ゐ山ゐ

国境橋

中境の橋ハ三ゐ屋風の作ゐ中ゐ多岩ゐ切石ゐ
重ゐて橋ゐ所ゐふり付ゐ所ゐ石橋ゐり他国の石橋ゐ
三ゐ橋ゐてゐうゐ中ゐ長橋の石橋ハ小ゐ三ゐと切て

石がきのごとく竪て両方より合せたるなり。さて橋ハ大きなる筋
を水を通ずるなり。是皆固りの橋といふ。唐橋ハ悉く石の橋ハ
大なる此風なり。下より見れバ深るまでハ皆なく事もあまりよし。
いかに細き柱をの末といへども動き揺るぐ事なし。唐の銀
て大河にハ舟橋なれども、長崎の川ハ大なく京都の堀川程の
大きさなり。万代不壊の橋なり。そのこと唐人来りて作りしと
いふ。彼地に素らかなる石たくさんなり。其上京都にても
かかる橋を作らバ、彼境の景ともなりて、よろしかるべきものと

家猪

安芸国広島の城下に豚繁昌し飼養する事、大坂より猶

まさるといふ。此地にて一町に二三疋づつハ多し。飼牛のぶたをぶたとて大坂
肥ふくして色黒く毛をはげて丸くなりたるの京都にいふ猪
のあるがごとし。家猪町々の軒下に多し。地をほりて土を掘りて
あり。勿論また商人もすくなし。是ハ彼地会所の命によるが
其上見られぬ事の中に多く飼ふ。
ますます多し。琉球にも多し。又長崎にも多く、やむこと
なく獣あり。甚だ羊に似て毛なきさまの異国羊
見ゆることあり。唐人の内にハヤギの牧ありて多く肴とす
といふ。何の料にするや。知らず。唐人又唐めき
て珍しきものとして、町々軒下に飼ひ多く人に見せける

うごく事なく其地く少し含獄にもかゝる所あり

地獄

肥前の温泉が嶽ハ西国の名山なり山の頂皆湯涌て所々の方ぐり湯のごとく陸に連なること三里ばかり一嶺に突出て高来郡の山なり是肥前の地の東へ流るゝを大洋の中に出て山温泉が嶽と同国なるとて是も海より涌る所に湯潮となりて此山の林藪の子湯より村に近て一宿す此里八丈一揆の時織部の中に籠るしが湯にて嶋原が在所まりし子湯より山に登る道嶮岨多くして深く翫の山なりやがて登る所の絶頂に登り付く絶頂ハ平地にて

民家もまた多く田畑も多くありしと語りなし実にて其村に帰る三日ばかりの川なきにて天竺の一小世界にして実に池上の仙境ともいふべしかくのごとき事も見るに萬民音の佛法入て権現の音出に温泉山ちと一乗院となりしが文武両道の法場仏像くさかりしが繁昌しけるとき天草の乱ありしも多く此頃八宗まではありしが織後此山に兵ありて依て寺々あばら捨られ今ハ纔に此一乗院ばかりぞ残りて其むかしの佛像せる事を今の温泉より古代までハ京都より座主家の云院主中し候より今日いたる法家の政事にてその後かゝる場の其ままなる有さまも昔まゝにし一乗院と号けし

[illegible]流[illegible]を[illegible]へ入まていろ〻くあ[illegible]一風[illegible]の人[illegible]の[illegible]のこ一[illegible]
ハまこと[illegible]人[illegible]も地[illegible]一[illegible]こ[illegible]雄[illegible]そ[illegible]く[illegible]て[illegible]ふ[illegible]ら[illegible]ぐ[illegible]て[illegible]
[illegible]句一[illegible][illegible]作りて[illegible]人流[illegible]
[illegible]ま[illegible]ま[illegible]流[illegible]ふ[illegible]一[illegible]て地獄めぐりすま[illegible]地ごくあ[illegible]
[illegible]ごくん地獄あり[illegible]地ごくあり[illegible]や地獄あり[illegible]や
地獄あり[illegible]ごくあり[illegible]
く多くハ[illegible]湯の地[illegible]
[illegible]て[illegible]ハ[illegible]
こと書はくすべきうあ[illegible]ず東[illegible]ハ[illegible]中五山[illegible]の[illegible]山
[illegible]地ごくあり[illegible]人[illegible]

[illegible]死すべ一[illegible]久[illegible]あるべ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]人[illegible]あり[illegible]
[illegible]ハ一[illegible]多一[illegible]
く[illegible]山の[illegible]
[illegible]東の[illegible]
の[illegible]の[illegible]
[illegible]山の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

東海氏の墓

考槃亭徒士の山上に東海氏のうもれ廣大壮麗なる墓の作りまうとハ大し日本第一とも云へし生前の作日本の墓の作りまうとハ大し

ちゞひ山の中腹と業ち宮ゝ高石垣のごとく築あげ中をうつろ

ホーて石の扉あり石の門まくりの表ハ唐代ハ模もまる石

と彫りて種々の花草紋細密にあり石の柱石の門ハ唐代模

第東洋彫刻あるひハ文字と彫りまかいろ〳〵の色美なる石

を以て柱まり三層へ廣くを細工精密にして業のさはくすべ

こさ云ふべきもそ造りまうる時の費張五十年間いりしを

ひとゝ後修理し怠まゝず二三十年ゝ経ハ常ゝ人工とまり

まう雪結せ一いうぐまうとまうりしてもの張よりまうりて

の門ぐる事ハ東海の墓雪結まうとまうハ人ハ庭上まう明の礼へを

まけて日本一流をまう大福まうのくるふいまうもまう緑

東海徒士命と名のうく廣人の墓事まう墓人ハ必

ひまうとまうべさ事まう目ハ墓すままう又墓ハまて京ま

ありて明樂の所絶せ一絶ハ氏の先祖のまうも墓の西山と

いふ所まうまう生製東海氏の墓のごゝ墓ぐまう大まうまう

石碑のごゝまう明故伯蘇模魏公六府君故考使奏魏公九府君墓道碑まう対まう前の

石階一行端東南の門まうと大字にまうまう又墓一脈下ハ椿林

鍾秀の四字大字と横一脈まうハまう小まうまいくまう世上のまう

ようゝべてゝ大王の夫の墓所とゝなるもゝ乃ぶ和ゝびまか
ゝ人の墓ハ大ゝ大ゝとして高ゝ聳たり

清正公

肥後の国熊本城加藤清正入道清正公の社
ゝらふ熊本城ゝ下ゝ一国の崇敬ゝ尊ゝ
たのゝゝゝゝより社頭の赤ゝまで神さびたる八幡宮祭
ゝ系ゝ事ゝをゝべゝる徳川天正のむゝ天下大乱ゝ
英雄豪傑ゝゝゝ武勇の大将ゝゝゝゝ
今の世ゝゝゝゝゝゝ神霊ゝとあゝめ徳もゝゝゝ人の崇ゝ
ゝむハ只此清正一人ゝゝ徳川清正の人ゝゝ義ゝゝゝ

いつくしみの雲ありて顕る仁慈の心ありまたその武士
の中にてハ殊にすぐれて見へし故に人心の義に感ずるハ於
漢土も同じ事にて歴代にても人多き中に関羽のこと今に神
とあがめ信仰もするなりあまり日本の地までも関帝堂
とらへをのを建てて崇敬為の人ハ家々信仰するなり通じても
其事德ハ呉の国までも雲較義烈の事気関羽の風お
きハ人心の歸する所ありて後世までも其様と尊まるなり

山汝

おもむき本間羅摩の様ゆゑ山大に燒けて殘り山よりも太き瀧き
ゑて田地盛んなる大に壊せりその人をこれ山汝と名付け禄

とハ人ハ海中にありて鰐の兒ぐり七里山の色黒く一歩ゆき繹て
比叡山二ツあるも平ひろごりくにあるしてそのめくりに金
田地ありて富饒の所なりこれまでの繞きかくし事ハ帝代の
役事まで一つし犯事ハ不奏ふ志るせり生饒渺法りて人
ても再び浴する田地して悦ある所ゆ或日又山の崖震動し
ておびてしこてハや又燒くる中をはる行に山の峯より雪をとけ
るがごとく地ま遂根に家あり何事ぞと人行きかかりて大いに
山と碎きくだけ然し松本と指てまくり海に生松先き
鋤に所き人家田地の家ぶゑく只一刻のうちに大海へ突出せり
さびかりの潮池なりさる山の峯より海と砂ら落せるうちて大

水をうつすに成るゆゑにこれ[illegible]
んものなり一人ともふ[illegible]るいとなもかくもうとこそ[illegible]
すりとやゝ弱もを地に成るつ付まを[illegible]とをうしふをあすず
を大なる谷と名を傳の田地の中或はふ[illegible]さ思へこそふと
大と称す大なるひはみ丈六丈みも及へる石ゑを[illegible]
うる石のゆゑにバ人力を知手事もあること田畑なども
[illegible]ら[illegible]ゑ[illegible]ふもきこれかゝる大石
ハれのゆゑ[illegible]ゑを下[illegible]る事[illegible]村の名[illegible]
是今も[illegible]のゆゑ[illegible]とをけバ[illegible]
[illegible]村丈[illegible]ゑ山[illegible]

[illegible]のゆゑ[illegible]
すべてる山大けの陰ハ多くハ大石溢
ゆゑる事あるゆゑ[illegible]
[illegible]大燒[illegible]の法[illegible]
事[illegible]人の[illegible]
又[illegible]
[illegible]
中ゆゑ九列[illegible]地を[illegible]門の玉と豊[illegible]玉[illegible]青[illegible]
[illegible]因[illegible]
遠[illegible]

引しほともにこれをあらそひて後は大河のごとくなる
ほとりの浪はいはの海入合るはるかの末にて寄来
る波はいとゝ赤ふ笑ふがごとくにはを波アの河部と
なりて後紅一筋もなくゆるきて逆面すべしとなんいさづふは
ひと筋さん事もむつかしくて後なる海の面るまで何ぞして波
なくさまざまてやうさと人に同じて龍紅とうの波アて波りの部
ア人なまの時う程を程をうしてうくくばとていさき龍
紅ごうう事僕と武人紅人二人紅会四人をうて波りぬ紅
の程はさもなうしう中波うるぶきハ後は大河のごとく逆巻
大波濤アて波の部なくなひたきー紅動ゆきと急流ー押波

さまて遠ア筋遠ア流を波りぬを多勢川のごとくなて
波の中ーーとあるぶ小紅なるまハ末のてのごとくゆるきて紅を
べくもあるぶ僕はとく龍紅ーぬ事も多波の見さぬーさふ
いと珍事ひて後め居ようしがあるうア後くゆるきて紅
地も事ア称ハ面白紅も波はくさぶ辛うーて波り
紅ぬ波ア波の波ア辛をきさぶるうア又波り
の中波ア出る山の長きう一ツ水の上後ア出ア長ア波与波素紅と
ひ逆紅のごとく波ア事いうるひくア名ー中ア間ア大陸考
計ア朝紅紅代の河部あの名をやまで出陸ありーふ波
とうとうアーて波先キ不押るぶきを部屋ぶ波ア波を

すぐふ碎けて水中に流れんとせしを弘法
有りゆけ玉なりと雖も流れ行くひしゃくの弘法なる
沈む玉とらひしゃくが大くとるべき不測法なるまバ印旬ふけ流ふ
切ゆくして失うまじ弘法とら法来流とハ名付しなり
淵の水ぞ口ぶ流きとうしまて大キの強きをしるべし又
下に蛟流あり弘法ハ佐々木義清 武中 武蔵 仕合の法
こゝまでを世の人に法ゆく事たまバ古くこゝ

景清の母

景清の母の墓あり世の人皆しる所なり然るに
景清の母ハ球磨の人吉の城下より天正程東の切畑村に墓

事ハ弘法ゆく景清が姉のくるもあり切畑の弘法として一村の祈
願寺ハ弘法村とて一村の祈願
有る事ハ弘法村とて一村の祈願
有る者ハ他所よりもゆく
つもりゆく雖後に成りて世
間に言人ゆゑ少しゆゑ

卓子

ところ上方ハ尾めさる事なれバ人卓子食と
い人料理とて一ツ器に飯食物をとて家数人ぶるの
華ハ紙つゆ盃を色々食する事有り盛ゆる事
奉ハ仕の嫌ハしき事もあるゆ用ハ紙ハ盃のむつ

うきまゐるく名をとひくくしかるに日本のこと食くつとに風俗の異
なるこそ面白まゐりもの佛ものも茶碗家そのちゐハふ茶とて
椀をのくく卓子料理とすることゐり是ハ日本ふてもさぞらこと
こゝふ出ひて至てむ易さ明友中ゐでハ彩ひがこゐる
ふかゐ屋ゐこそ世ゐる都のことゐりとなきそれゆゑふ茶碗一椀
まゐる屋人日本の客くに茶碗とのくも膳椀をるぶくこひし
人ておのまが著ゐてを考ゐの一つもとゐぶゐるとゐんて大感
銘ハ日本ハ礼儀ぶゐ中ゐ茶碗のもてゐ中ゐて
秋饗会の中ふかくのごとく礼をそなび名家とのくも
膳椀とゐくふ使ハゐ屋ゐるぶふてハおゆひもゐぶゐる

といへるとなを俗ゐ是紙用てハ日本の風俗ぶゐ紙ゐるぶくく
まゐり礼儀ぶゐ中ゐて中ゐくく上方のごとく卓子料理
もまゐ和ゐてゐまゐも仕まゐ成ゐてハいとみぶゐうゐき
まゐるくく屋人の歳ぶするも尤のゐるりすくく是ゐ
ぶゐくぶゐ日本のぶ茶まゐハ屋ゐくるぶの不及ゐ多ゐ日本の
内ゐて中ゐ料理ゐ屋ゐ中ゐ紙ゐ使ゐぶゐて中ゐる和の文ゐ
のまゐふてもゐ文ゐ紙と紙ゐるゐ紙一ゐの新ぶゐて物
ゐふくくゐる廉異のものふてゐいゐのゐ通ゐるくゐ使ゐくゐ紙
屋人笑ていゐゐ不審ゐりて新ゐくくことゐぶ日本中ゐいゐ
横著無礼のゐるものゐて中ゐ礼儀ゐるゐ礼儀のごゐゐ

そのふても封しろ悟浄それる弄へそれを決してあるさるゝ
金蝉子て澄浄ボろしらる署もち御ぞみふ封しらる状ハ空
さまり芸ふのゆるゝ成り分付ぞきハこれをあまし唐人等ぞ
よりえハ驚きて讃むすへきるもりくき流沙経の友ふ玄奘
しらひし此人唐人館阿蘭陀館巡見のちまさ阿蘭陀館
肉ハさつりつし掃除し毎日の雑人一人も出入るゆるく思す
又弥千しるどふる下統のとのハゆつるきおしこる動しるゆふや
まへ人も因ふりくらに唯カピタン以下の役人ろらをのでらよ出て
乳気数をふて番語の事新もおかりしふ唐人館まそハ唐
人の雑人大勢通の左右に出て行列をえ拝しありしハ空

くりて行列の中まも押入りわさひハ本まの僧り堀ゝ攀ける
数ゝるひのつしきいらふ制しても一向に聞入すも奉れ至
抱ゝりしつハこまさよりきびしく沙めりしる程承知せで
して彼ゑまてハ乾隆帝南巡の付ぶふも行まろ通く立律
とひて見ん抱せり王子ゝてきくつくのことくしきれ以下の人々
るきしてそれまハわるいと云人居ゝしを天子の巡幸に
たれるゆゑ上下和順ふして万事ありとふくども法度のえぶ
あるる事ハ出ひゆるべし すべてのゆゑふ唐土ハ文弱の風気ま
て下統のとのまゝ法度の厳粛なるこそハ行まろうきまるすへし
と此国へつて阿蘭陀すくハ法度正しきとい人へし 細

観人なくふても来朝の時下船のものども道中筋にても見
物するにても其國のならはしぞとおもふべし

鐘乳穴

備中國阿賀郡の山中に俗にちち穴と称する洞あるなり
ちちとハ鐘乳といふ事にて其洞中に鐘乳石多く
ある故に名付しなり松山城下よりハ七八里程へだてたり穴の
入り口ハ至て大きにして暗く入事ハ行歩ありて石壁あり其
石壁に小さき穴ありて其小さき穴をくぐりて入事ハ大きなるひ
ろきところに至る此所よりすこしの日光もなく暗黒なる故
しきりに案内の者松明を多くともして入るなり其

内広さ凡四五十間四方も有るべし此所より上ハ鐘乳石様
成る物なり又其天井の壁に垂れさがりて數ありて皆自然の
石にて其形ちさまざまに奥の方へ入り行くに又行あり
石壁ありて其石壁の上に壇の如くなる小穴ありてやうやう匍匐し
てくぐり入る所の小なる所あり其ある所てやうやうにしてぬけ出
れバ又廣き所ありて此所ハ二段になりて又其上に穴ありて又
ここにあり道に段ある所にて松明をともしてしばらく進み
ゆくに切岸のごとき断崖あり其かげは深くふかくして
はるか下に流るる流の川ありて水の音すさまじく
其下に川ありて涌へて縦するもゆけバ又ゆくさき窮りて石

程ありて是より又小穴ありそれともくゞりて抜まハ又廣
き所あり此所も福の二ヶ所よりハ大に狭くして絶て至
るべくもあらず見え又其の奥に小穴ありて是よりも
くゞり入るべき様に見ゆ又其奥ハいかなる所なるやい
なや知る人なし余の友人も先年此所に至りて
此案内に雇ひし老人と郷導として其穴にいりし郷導
の老人も恐ろしがりて此穴の案内を辞して帰らんとせ
しこともありし二段目の懸崖とありし事ハよく語りも傳
ぎりしまゝ其後此事の甚だ勝景ありて人々多く訪
もある人其穴ハ志いでて入りて二段目の廣き所まで入べし

に猶其奥を探らんとすしかるに郷導の老人大におそれて松
明の用意少なれば万一穴の中にて松明尽なば再び人間に帰る
事叶ふべからず猶その奥にハいかなるものゝ住居んもはかるべ
からず知れざるまゝバ速にいでよといふにぞせん方なくて逃出しぬ其奥も
知るべく出て歎きし此世の人と語り傳へ画図にも写して人々に示せ
ども余ハ是のみにて唯其奥を知らず此穴の珍らしき事いふばかりなし
さる程此洞穴之又豊後の國那賀(?)の山中にも其類の穴ありて甚だ
多く奇異の洞穴ありて数十丁奥までも入事叶はず其奥
不思議ありとの事ハ先年其洞中の事どもありしものなりし
またさまざまの山中にも縦横乱れて入る穴ありとぞ

つくるこそ家さの人わるゝ伊豆国ふう伊東の湯あるゆすくゝ
さ宮ゐるまでも今ゝてハ城さどろこや入うゝる人あるゆ紙さうだ
屋ゐうてハ湯殿とゝ山ゝ半ゝ里ゝ雲霧ゝあ多湯宮ゐうゝさ合
里ゝとゝんくゝう湯殿の人さ湯あるの湯ゝと拾りそ切めをく
又地とふ出ゝるゆと載ゝうゝ石里ゝとゝんゝだたゝくゝ古ゝてさ中ゝ小
ゝゝも日ゐたゝゐ十里わるくゝ数日れ湯ゝと拾ゝく宮れ中に数
日歩とへてとゝくゝいゝることゝさゝゝゝゝれゆゝうゝ湯ゝ人めゐ
ゆの辯ゐうゝくゝを湯ゝうとゝさゝめゝるゆ巻ゝさの人ゝう世界
の湯ゝうゝひゝくゝ湯殿ゝ他ゝるゝ宮中ゝさゝ鑑賞鑑賞ゐ
大蛇毒むゝのれも生ゐるとのハ他ゝゝさゝゆくふゝや湯ゝ奥湯ゝと

宮中ふたゝうゝゝさゝのくゝ成ゝるゆハまゝへずゝさゝゝ晴ゝまの宮
ゐうくゝべゝうハゐ細ゝさゝうゝぞゝんゝゝるゝべゝ

西遊記巻之五終

肥前
常盤屋
嶋原

一西遊記 後編 全部五冊
一東遊記 前編 全部五冊
一同 後編 全部五冊

寛政七年卯三月

京都寺町通松原下ル町
勝村治右衛門
大阪心齋橋通安土町
吉田善藏
書林